

サッカースタジアム整備に係る諸課題に関する各委員の意見
(第1回サッカースタジアム検討協議会)

＜まちづくりにおけるサッカースタジアムの位置づけ＞

- スタジアムの議論に入る前に、まちづくりの視点から、都市の理念を確認し、共通認識を持つ必要がある。
- 広島のみちとして、スポーツの文化、サッカーの文化をどう位置付けていくのかの議論が必要だ。

＜建設候補地の考え方＞

- どこに整備するにせよ、必ずアクセスも含めて検討すべきだ。
- 現在の西風新都も、厳しい立地条件ではあるが、何らかの解決策があるのではないということも議論すべきだ。
- ある立地だけを詳細に検討して、他はあまり検討せずに終わるのでは、市民の納得が得られない。

＜収支計画、経済波及効果等＞

- 建設コストや収支計画など、どれくらいの規模で、どれくらいの採算ベースでやっていくのかをきちんと整理しておくべきだ。
- スタジアムは粗密のある施設であり、中心部に適した施設か、また、どう付加価値を高めれば、有効活用できるのかを議論すべきだ。
- いくつか候補地はあるが、そこに整備する場合、どういうインフラの整備が必要で、どういう経済支出が必要だが、その替わり、こういった恩恵があるということを議論すべきだ。

＜旧市民球場跡地でのスタジアム整備について＞

- 旧市民球場跡地は他の議論も進んでいるため、まず旧市民球場跡地に作るとしたら、どういうものができるかを早急にまとめるべきだ。まずは、場所をどこにするかをスタートにすべきだ。
- 旧市民球場跡地の場合には、広島のアイデンティティとして、景観の問題を考えるべきだ。
- 旧市民球場跡地も候補地の一つではあるが、そこありきで入るのは早急である。